

第3章 個人調査の調査結果

I 旧姓使用者の状況

1 調査対象者

本節では、「現在、旧姓を使用している」と「旧姓と戸籍名を併記している」者を合わせた 3,209 人を、「旧姓使用者」として、実態把握を行った。

なお、この調査では、現在、旧姓を通称として使用している者を 2,000 サンプル以上集めることを目的にスクリーニング調査を実施しており、調査対象者の選定に偏りがある点に留意が必要である。

年齢階級別にみると、30 代前半が 26.1%、30 代後半が 28.9%と、30 代が全体の 5 割以上 (55.1%) を占めている。

表 3.1 年齢階級

	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60-64 歳	総計
回答者数 (人)	32	406	839	928	627	325	28	22	2	3,209
割合 (%)	1.0	12.7	26.1	28.9	19.5	10.1	0.9	0.7	0.1	100.0

(備考) 3,209 人のうち、4 人は男性だが、全体に占める割合がごくわずかであるため、実態把握に当たって、性別による区分は行わないこととした。

雇用形態別にみると、「正社員・正職員」が約 7 割 (69.1%)、「パート・アルバイト」が 14.8%、「契約社員」が 6.8%、「派遣社員」が 3.1%等となっている。

表 3.2 雇用形態

	正社員・正職員	契約社員	(労働者派遣事業所の) 派遣社員	パート・アルバイト	会社などの役員	自営業者 (雇人あり)	自営業者 (雇人なし)	家族従業者 (自営業の手伝い)	その他	総計
回答者数 (人)	2,218	219	98	475	10	34	120	18	17	3,209
割合 (%)	69.1	6.8	3.1	14.8	0.3	1.1	3.7	0.6	0.5	100.0

職種別にみると、「事務的な仕事」が約 5 割 (48.9%)、続いて「専門的・技術的な仕事」が 25.4%となっている。

表 3.3 職種 (正社員・正職員、派遣社員、パート・アルバイト)

	管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	生産工程の仕事	運搬・清掃・包装の仕事	その他	総計
回答者数 (人)	141	766	1,472	263	284	58	25	1	3,010
割合 (%)	4.7	25.4	48.9	8.7	9.4	1.9	0.8	0.0	100.0

(備考) 職種については、正社員・正職員、契約社員、派遣社員、パート・アルバイトの計 3,010 人が調査対象である。

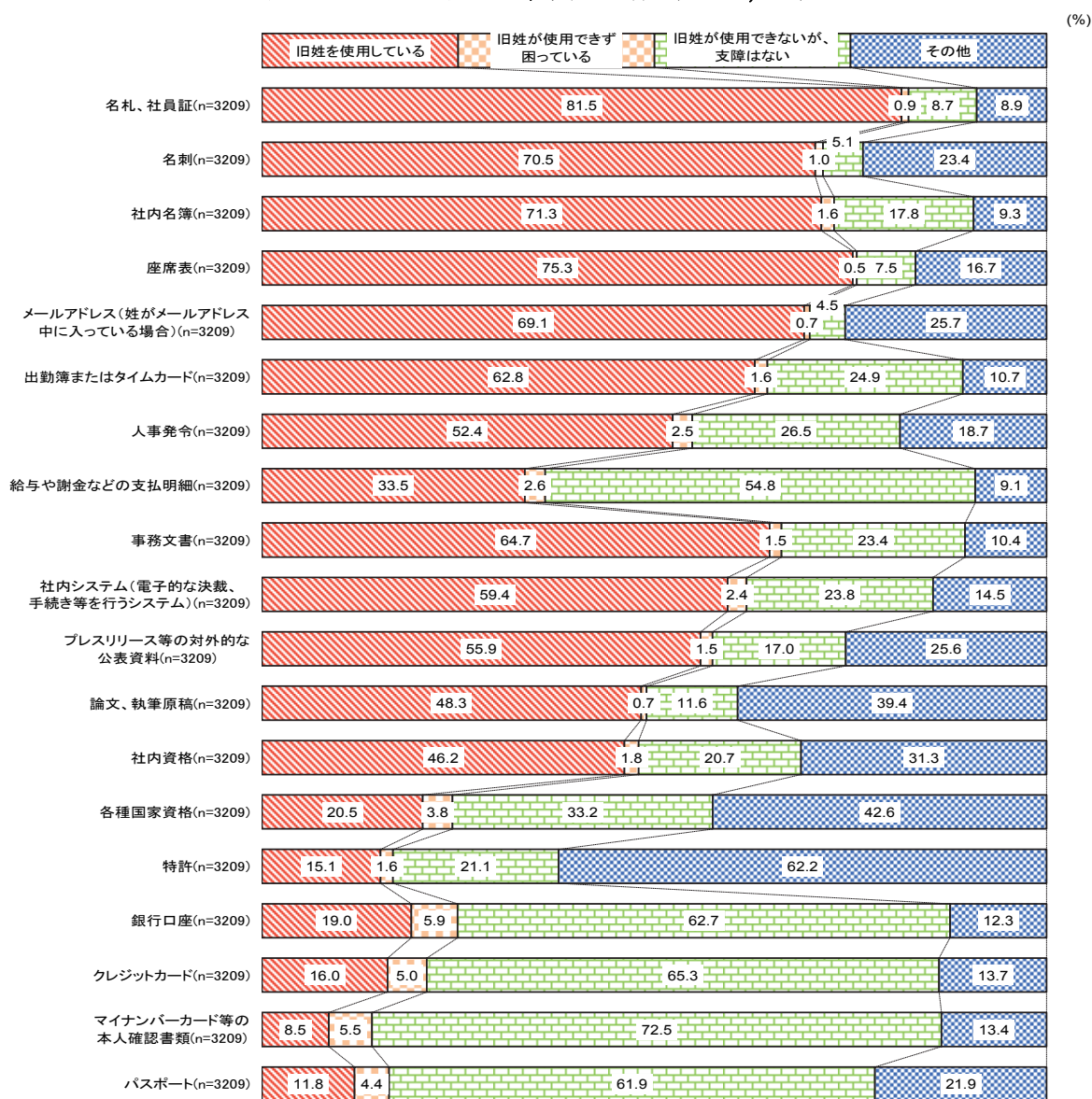
2 旧姓使用の範囲

ここでは、旧姓を使用している範囲について、「旧姓を使用している」、「旧姓が使用できず困っている」、「旧姓が使用できないが、支障はない」、「その他（日常使わないなど）」に区分して、実態把握を行った。

(1) 旧姓使用者全体（n=3,209）

旧姓を使用している範囲をみると、「旧姓を使用している」と回答した者の割合は、高い順に、「名札・社員証」（81.5%）、「座席表」（75.3%）、「社内名簿」（71.3%）、「名刺」（70.5%）、「メールアドレス」（69.1%）となっている。一方、「旧姓を使用している」と回答した者の割合が低いものは、「銀行口座」（19.0%）、「クレジットカード」（16.0%）、「パスポート」（11.8%）、「マイナンバーカード等の本人確認書類」（8.5%）等であるが、これらの項目について、6～7割は「旧姓が使用できないが、支障はない」と回答しており、「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合は、最も高い「銀行口座」で5.9%、「マイナンバーカード等の本人確認書類」で5.5%であった。

図3.1 旧姓使用の範囲：全体（n=3,209）



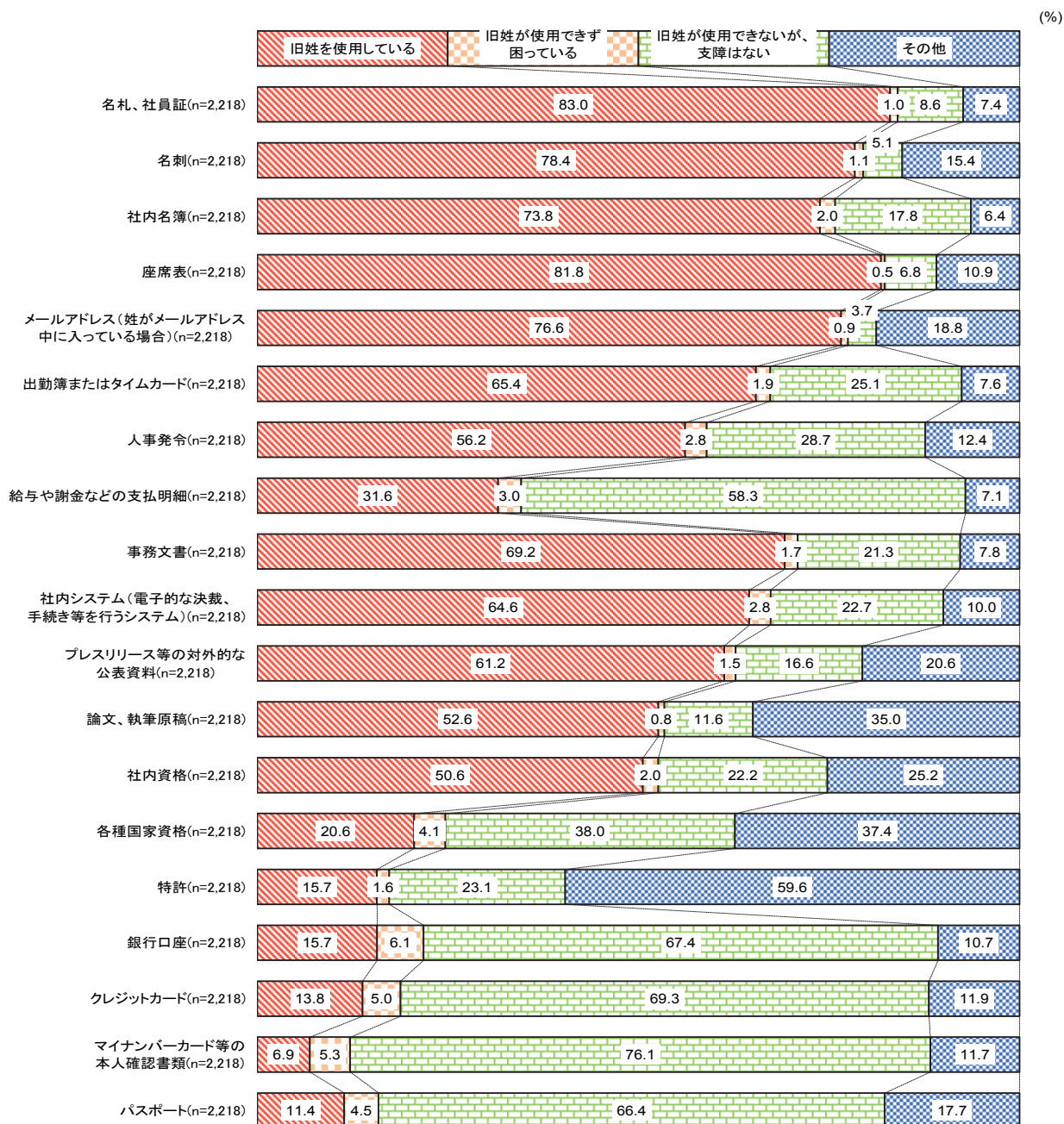
(備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
 2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

(2) 雇用形態別

旧姓を使用している範囲について、「正社員・正職員」、「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト」、「自営業」の3つに分けて、実態把握を行った。

「正社員・正職員」の場合、「名札、社員証」から「社内資格」までの社内の制度やシステムのうち、「給与や謝金などの支払明細」を除く12の項目について、「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト」、「自営業」と比較して、「旧姓を使用している」と回答した者の割合が高い。一方、「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合をみると、高い順に、「銀行口座」(6.1%)、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(5.3%)、「クレジットカード」(5.0%)、「パスポート」(4.5%)、「各種国家資格」(4.1%)となっている。

図3.2 旧姓使用の範囲：正社員・正職員 (n=2,218)

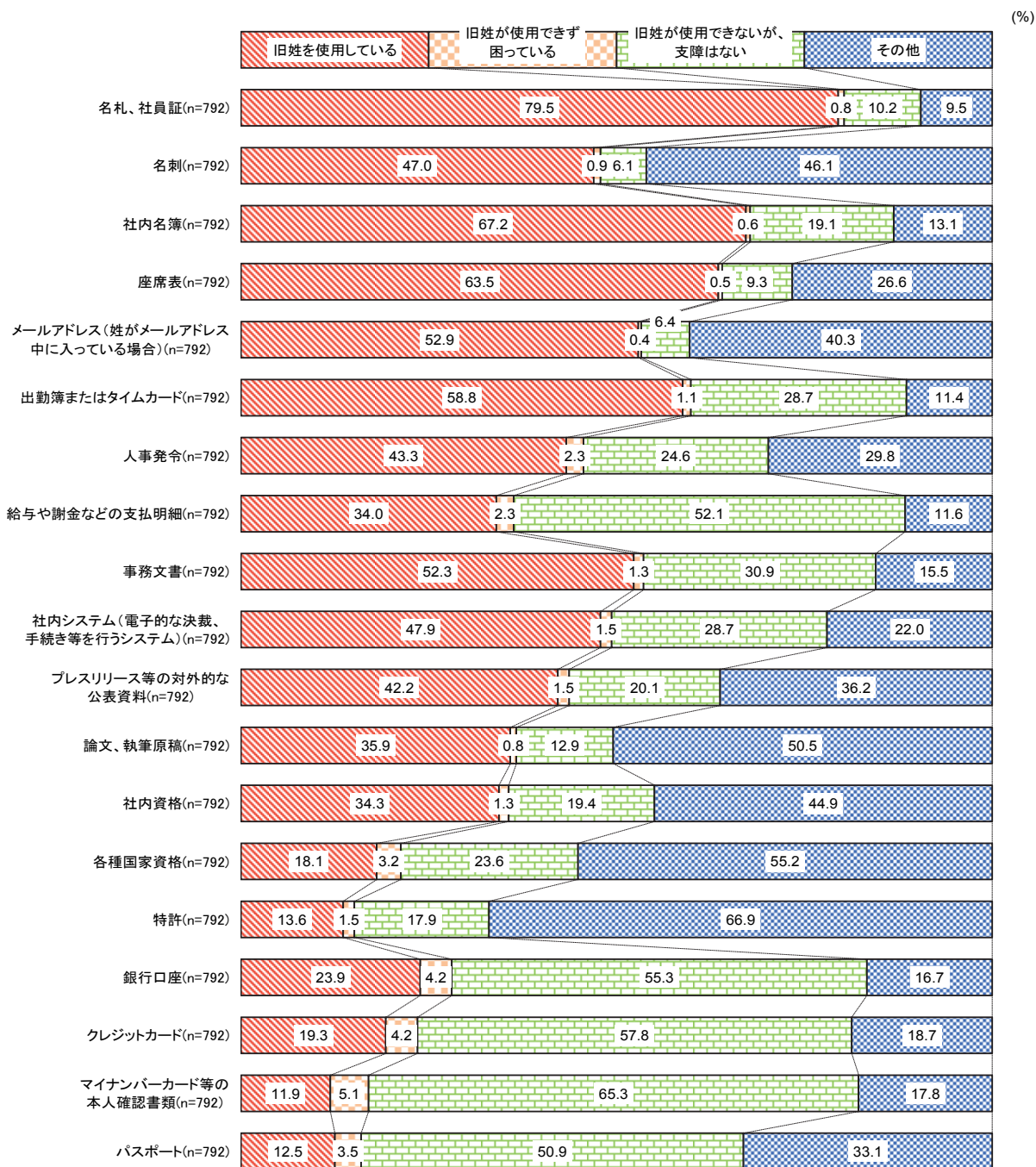


- (備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト」について、「旧姓を使用している」と回答した者の割合をみると、「名札、社員証」から「社内資格」までの社内の制度やシステムのうち、「名札、社員証」は「正社員・正職員」とほぼ同水準であり、「給与や謝金などの支払明細」は「正社員・正職員」より 2.4 ポイント高いが、その他の 11 の項目は、いずれも、「その他（日常使わないなど）」と回答した者の割合が高いことなどから、「正社員・正職員」に比べると低い。

「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合は、高い順に、「マイナンバーカード等の本人確認書類」（5.1%）、「銀行口座」（4.2%）、「クレジットカード」（同）、「パスポート」（3.5%）、「各種国家資格」（3.2%）となっており、「正社員・正職員」と顕著な違いは見られない。

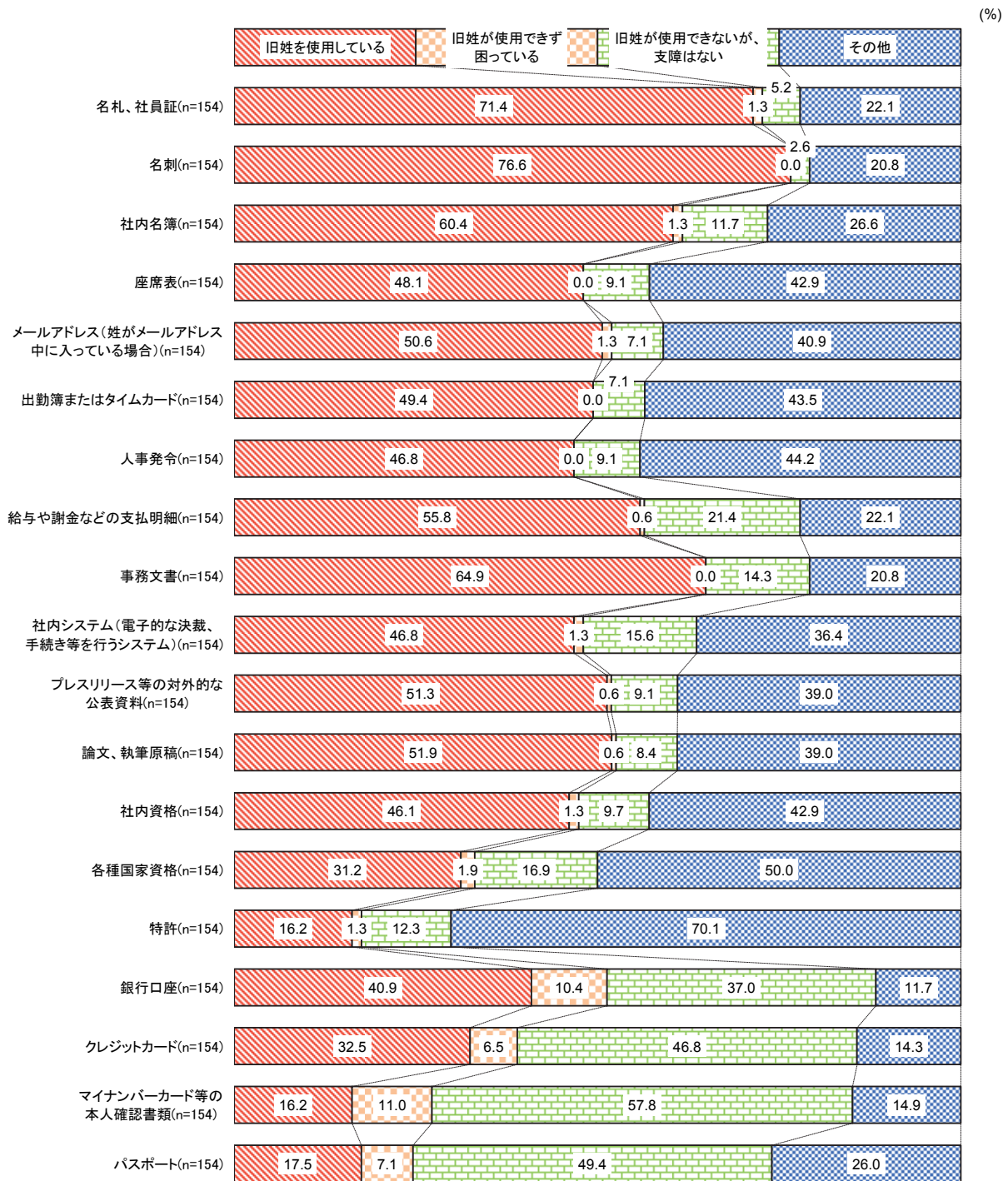
図 3.3 旧姓使用の範囲：契約社員、派遣社員、パート・アルバイト（n=792）



(備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
 2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

「自営業」の場合、「旧姓を使用している」と回答した者の割合は、「給与や謝金などの支払明細」(55.8%)、「銀行口座」(40.9%)、「クレジットカード」(32.5%)、「各種国家資格」(31.2%)、「パスポート」(17.5%)、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(16.2%)、「特許」(同)について、「正社員・正職員」、「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト」より高い。また、「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合は、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(11.0%)、「銀行口座」(10.4%)、「パスポート」(7.1%)、「クレジットカード」(6.5%)が、他の項目に比べて顕著に高い。

図 3. 4 旧姓使用の範囲：自営業 (n=154)



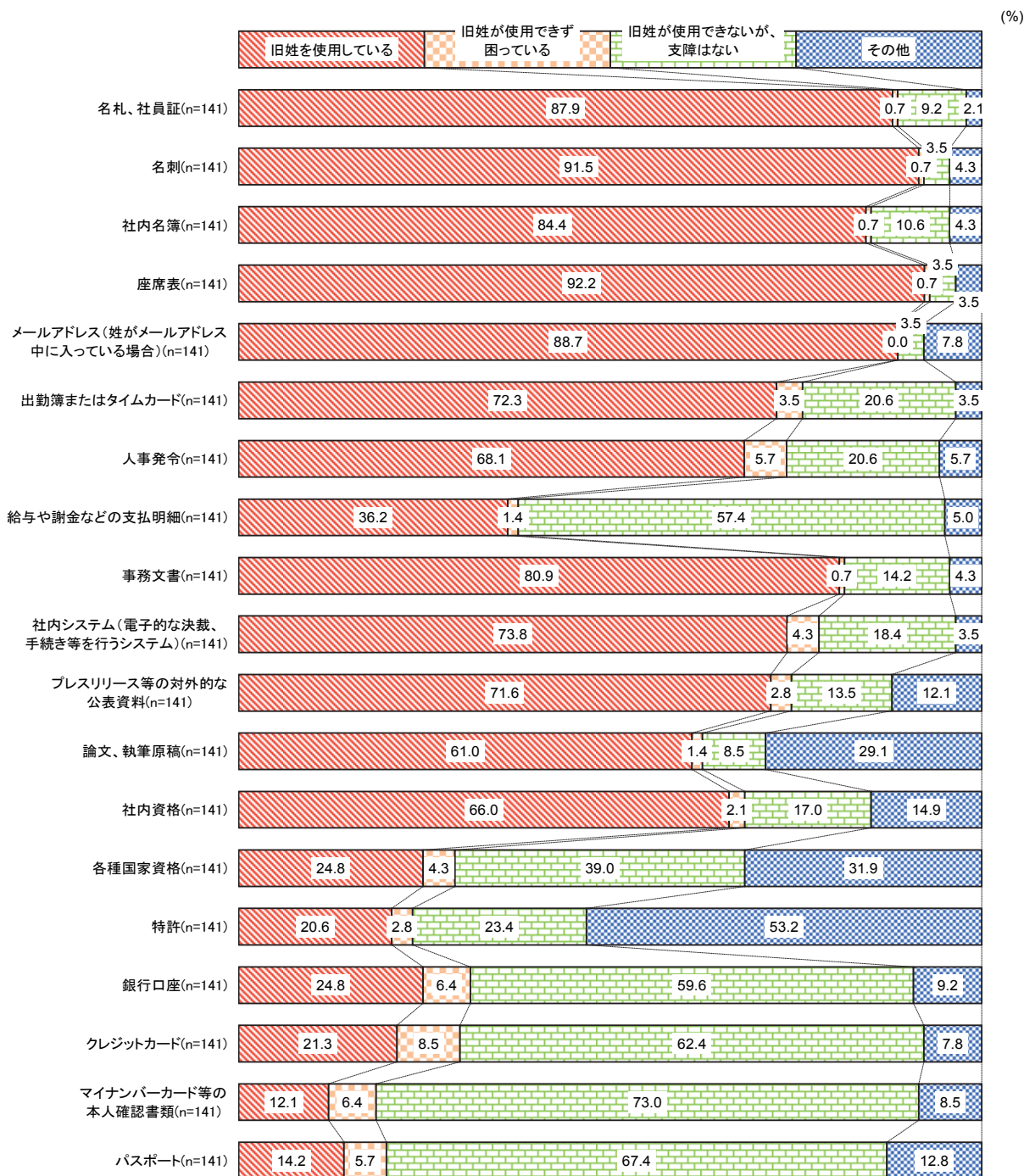
- (備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
 2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。
 3. 「自営業」は「自営業(雇人あり)」と「自営業(雇人なし)」を含む。

(3) 職種別

旧姓を使用している範囲について、「管理的な仕事」、「専門的・技術的な仕事」、「事務的な仕事」、「販売の仕事」、「サービスの仕事」の5つの職種について、実態把握を行った。

「旧姓を使用している」と回答した者の割合について、5つの職種を比較すると、「給与や謝金などの支払明細」を除く全項目について、「管理的な仕事」をしている者において最も高い。一方、「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合をみると、高い順に、「クレジットカード」(8.5%)、「銀行口座」(6.4%)、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(同)、「パスポート」(5.7%)、「人事発令」(同)となっている。

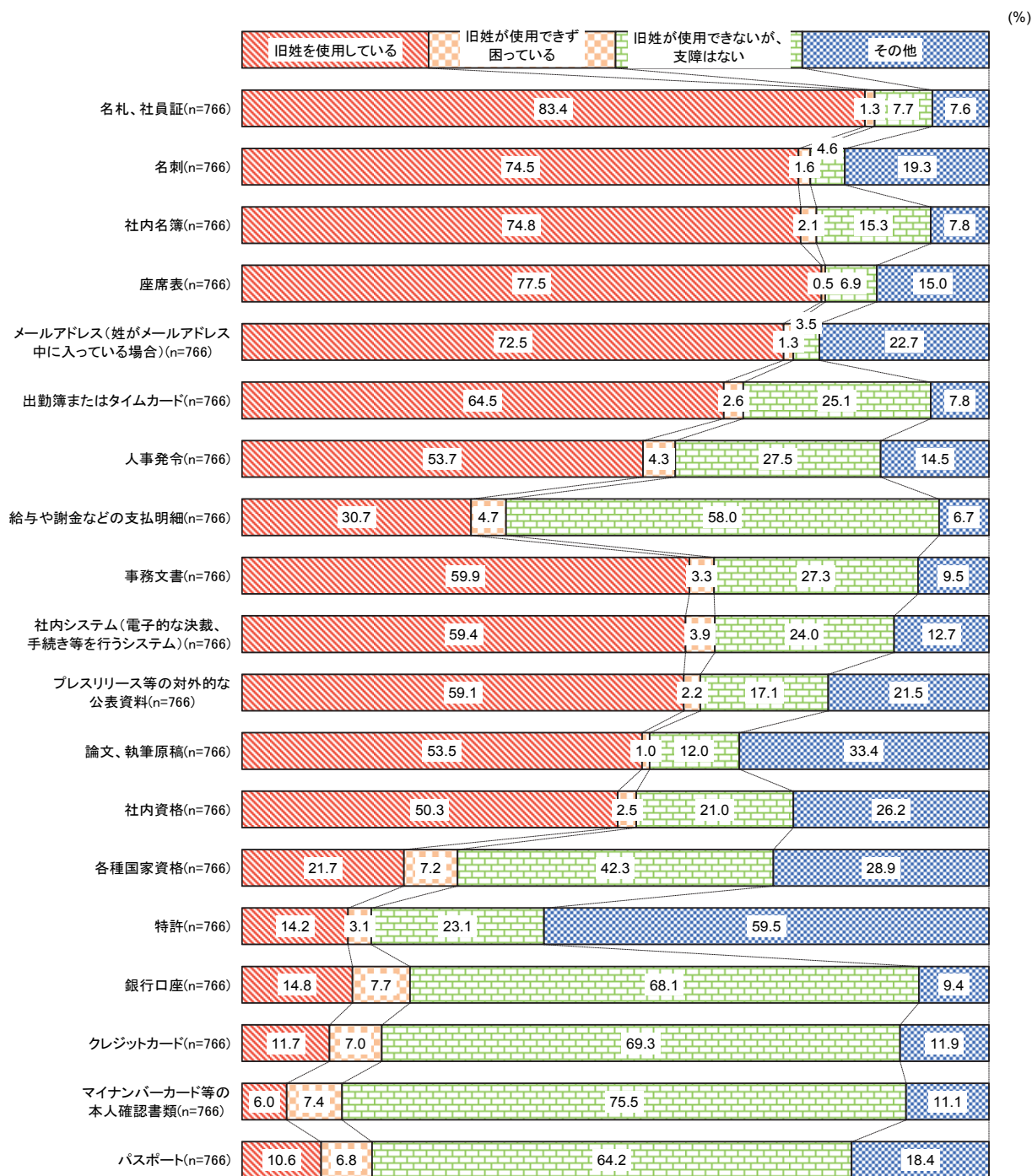
図 3.5 旧姓使用の範囲：管理的な仕事 (n=141)



(備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

「専門的・技術的な仕事」をしている者の場合、「旧姓を使用している」と回答した者の割合は、いずれの項目についても、「管理的な仕事」をしている者より低い。また、「社内名簿」(74.8%)、「名刺」(74.5%)、「プレスリリース等の対外的な公表資料」(59.1%)、「論文、執筆原稿」(53.5%)、「社内資格」(50.3%)については、他の3つの職種(「事務的な仕事」、「販売の仕事」、「サービスの仕事」)より高い。一方、「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合をみると、高い順に、「銀行口座」(7.7%)、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(7.4%)、「各種国家資格」(7.2%)、「クレジットカード」(7.0%)、「パスポート」(6.8%)となっている。

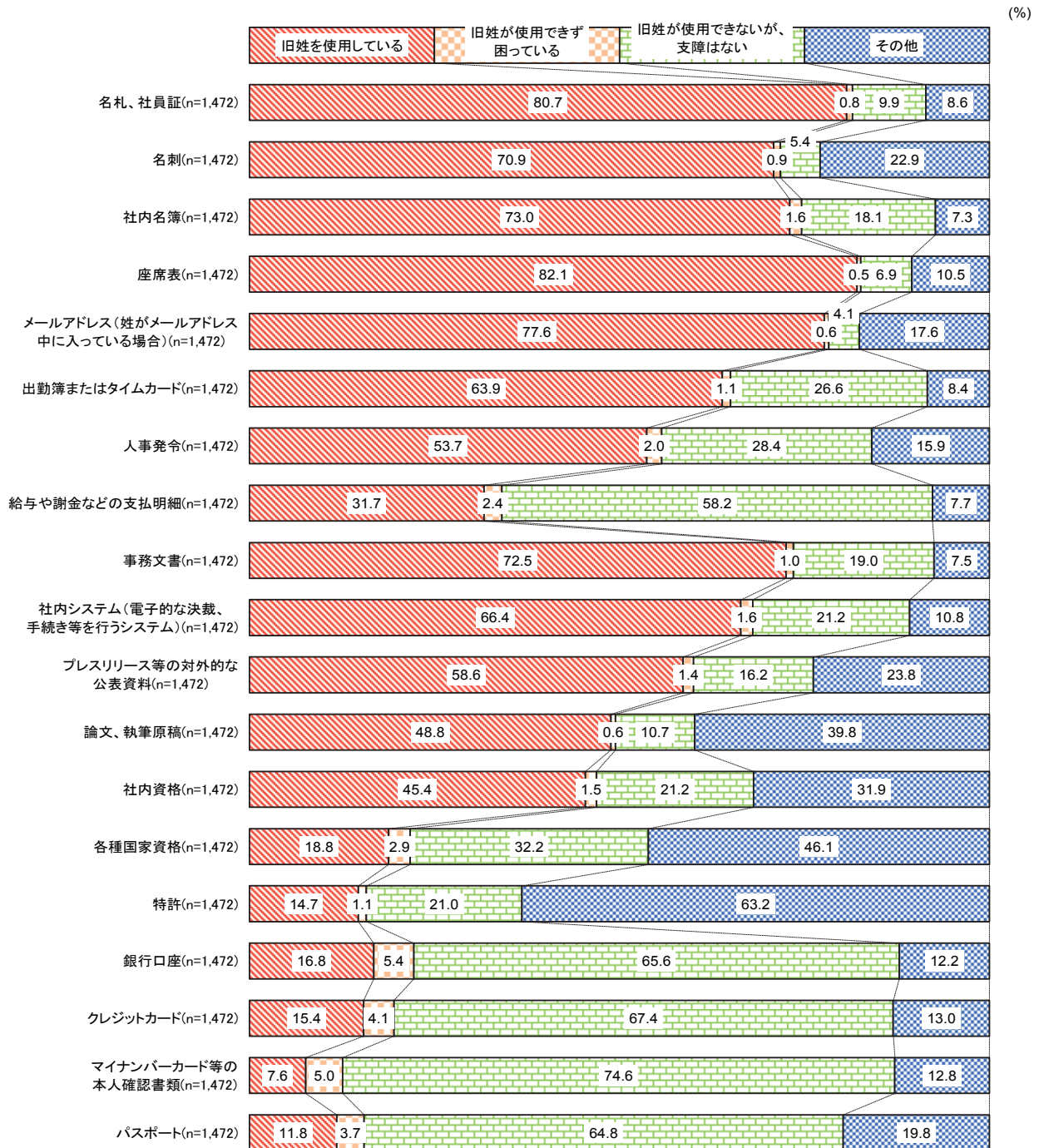
図 3.6 旧姓使用の範囲：専門的・技術的な仕事 (n=766)



(備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

「事務的な仕事」をしている者の場合、「旧姓を使用している」と回答した者の割合は、いずれの項目についても、「管理的な仕事」をしている者より低い。「座席表」(82.1%)、「メールアドレス」(77.6%)、「事務文書」(72.5%)、「社内システム」(66.4%)について、他の3つの職種(「専門的・技術的な仕事」、「販売の仕事」、「サービスの仕事」)より高い。一方、「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合をみると、高い順に、「銀行口座」(5.4%)、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(5.0%)、「クレジットカード」(4.1%)、「パスポート」(3.7%)、「各種国家資格」(2.9%)となっている。

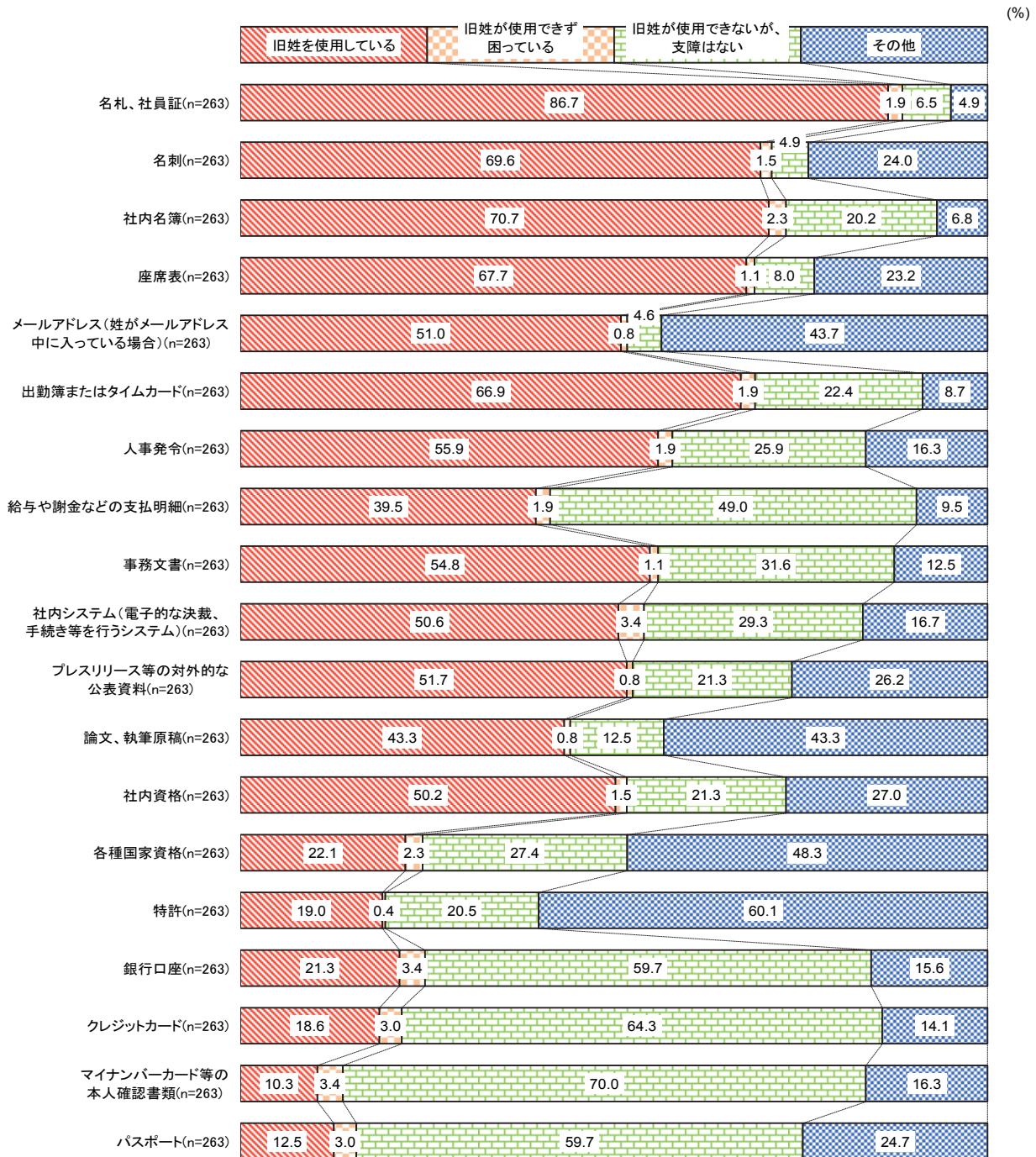
図 3.7 旧姓使用の範囲：事務的な仕事 (n=1,472)



(備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

「販売の仕事」をしている者の場合、「旧姓を使用している」と回答した者の割合は、「給与や謝金などの支払い明細」(39.5%)で他の4つの職種より高い。一方、「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合は、高い順に、「銀行口座」(3.4%)、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(同)、「社内システム」(同)、「クレジットカード」(3.0%)、「パスポート」(同)となっている。

図 3.8 旧姓使用の範囲：販売の仕事 (n=263)

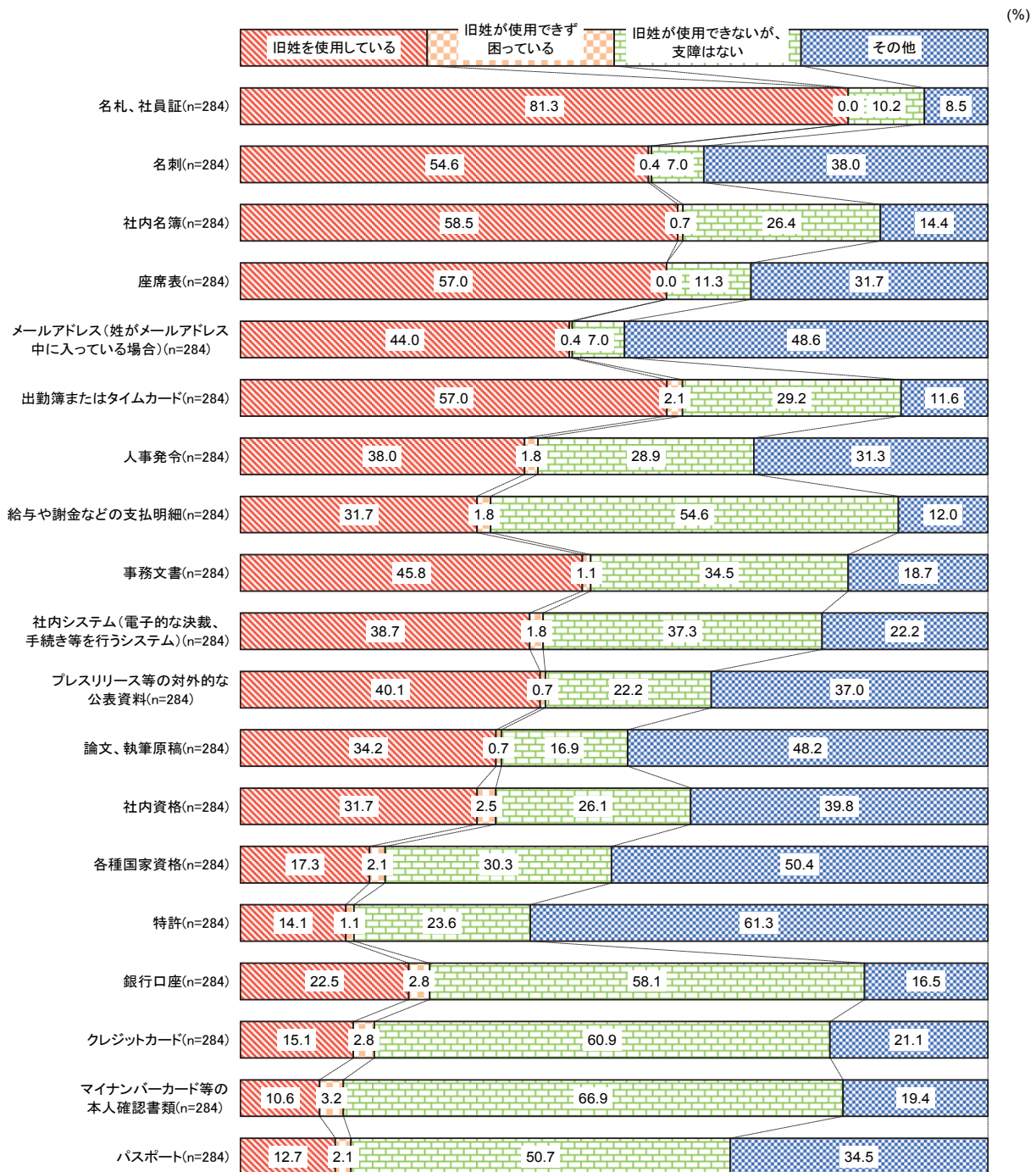


(備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

「サービスの仕事」をしている者の場合、「旧姓を使用している」と回答した者の割合は、「名札、社員証」から「社内資格」までの社内の制度やシステムについて、「その他（日常使わないなど）」と回答した者の割合が高いことなどから、「名札・社員証」(81.3%)と「給与や謝金などの支払明細」(31.7%)を除くと、他の4つの職種に比べて低い。一方、「銀行口座」(22.5%)、「パスポート」(12.7%)、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(10.6%)は、「旧姓を使用している」と回答した者の割合が、「専門的・技術的な仕事」、「事務的な仕事」、「販売の仕事」の者と比較して高い。

「旧姓が使用できず困っている」と回答した者の割合は、高い順に、「マイナンバーカード等の本人確認書類」(3.2%)、「銀行口座」(2.8%)、「クレジットカード」(同)、「社内資格」(2.5%)、「各種国家資格」(2.1%)、「パスポート」(同)となっている。

図 3.9 旧姓使用の範囲：サービスの仕事（n=284）



(備考) 1. 「旧姓を使用している」は、「旧姓のみ」、「旧姓と戸籍名の併記」の回答を合算している。
2. 「その他」は、各項目を仕事の上で日常使わない場合などである。

3 旧姓使用できたらよいと思う範囲（自由回答）

「2 旧姓使用の範囲」に記載したもの以外で、旧姓使用できたらよいと思われる事項を尋ねたところ、次のような回答が挙げられた。

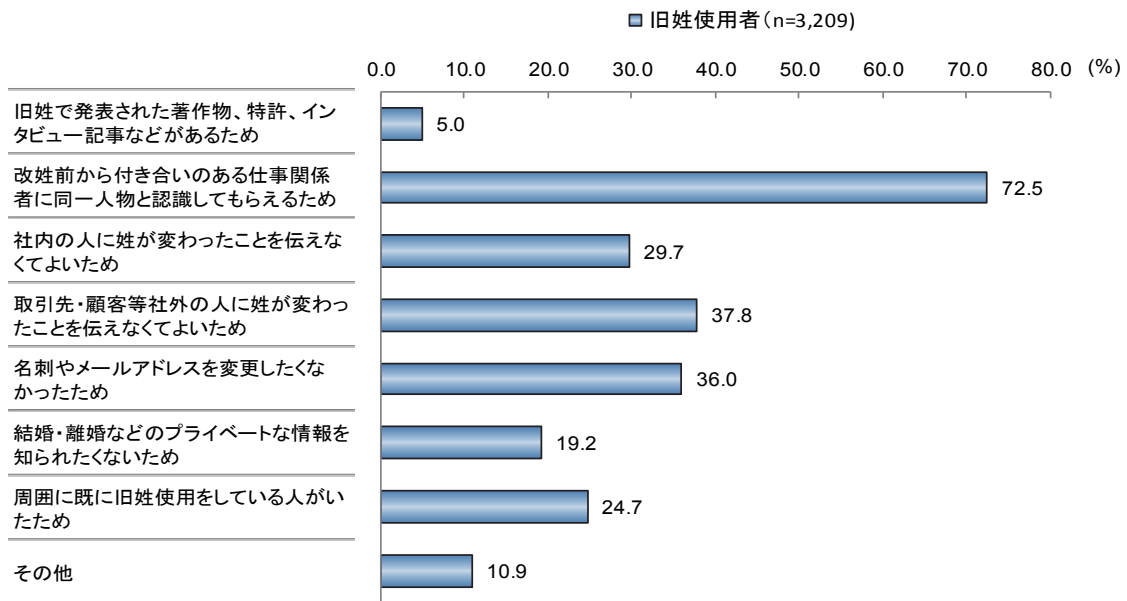
- 旧姓を証明するものがないため、住民票や運転免許証に旧姓を併記してほしい。
- 普段、旧姓を使用しており、病院で戸籍名を呼ばれても自分のことだと気が付かないことがあるため、健康保険証でも旧姓が使えるとよい。
- 銀行口座について、氏名変更の手続きが煩雑なため、旧姓で口座を維持できるとよい。

4 旧姓を使用する上での動機や意識

(1) 旧姓を通称として使用しようと思った理由・きっかけ

旧姓を通称として使用しようと思った理由・きっかけをみると、「改姓前から付き合いのある仕事関係者に同一人物と認識してもらえるため」が72.5%と最も高く、次いで「取引先・顧客等社外の人に姓が変わったことを伝えなくてよいため」(37.8%)、「名刺やメールアドレスを変更しなくなかったため」(36.0%)となっている。

図3.10 旧姓を使用しようと思った理由・きっかけ（複数回答）



旧姓使用を始めた理由・きっかけについて、「その他」として、次のようなものが挙げられた。

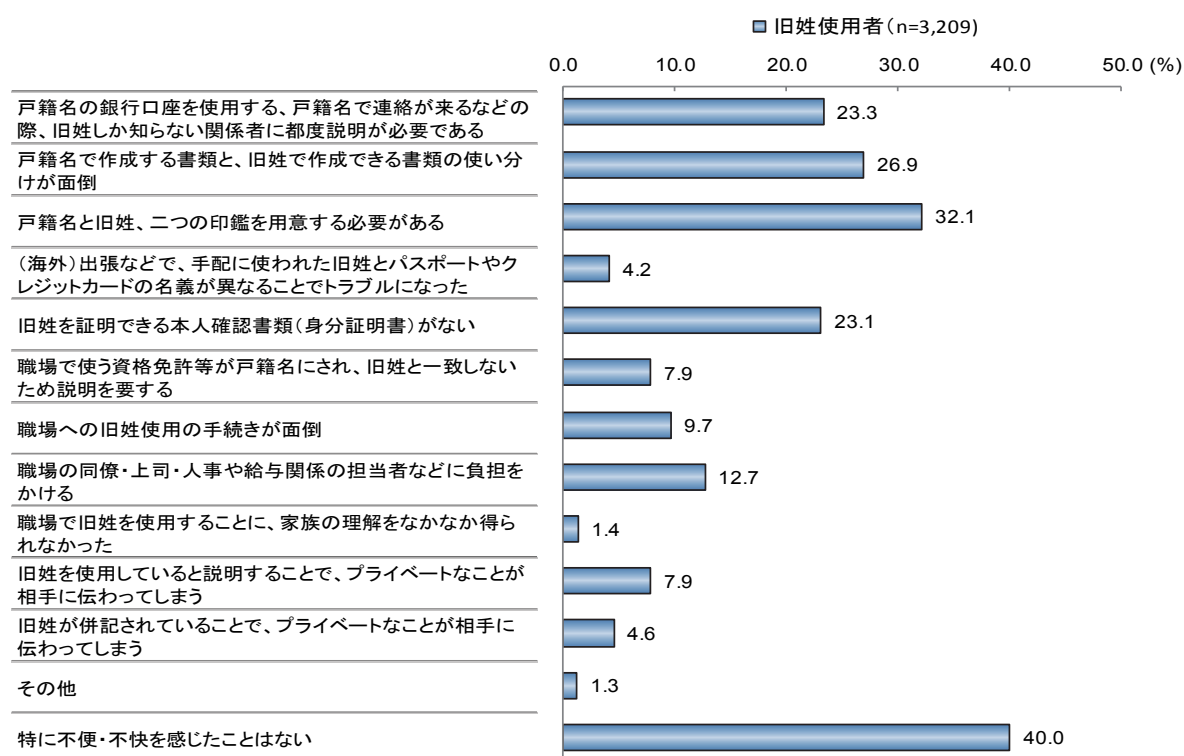
- 新姓への変更に伴う社内システムの変更や手続きが煩雑である。
- 会社で最近、旧姓使用が認められるようになった。
- 会社が旧姓使用を勧めており、旧姓使用が会社の方針・社風である。
- 夫と同じ店舗で働いており、旧姓を使用の方がお客様が区別しやすい。(理容師・美容師)
- 業界全体として、旧姓使用のための制度が整備されている (弁護士)

(2) 旧姓を使用する上で不便・不快に感じたこと

旧姓を使用している者に、旧姓を使用する上で不便・不快に感じたことがあるかを尋ねたところ、「特に不便・不快に感じたことはない」が40.0%となっている。

他方、不便・不快に感じた場面の具体例としては、高い順に、「戸籍名と旧姓、2つの印鑑を用意する必要がある」(32.1%)、「戸籍名で作成する書類と、旧姓で作成できる書類の使い分けが面倒」(26.9%)、「戸籍名の銀行口座を使用する、戸籍名で連絡が来るなどの際、旧姓しか知らない関係者に都度説明が必要である」(23.3%)、「旧姓を証明できる本人確認書類(身分証明書)がない」(23.1%)となっている。

図3.11 旧姓使用で不便・不快に感じたこと(複数回答)



また、「その他」として、次のような回答が挙げられた。

- 特許出願の際に改姓後の氏を用いることで、旧姓での実績が理解してもらいにくくなった。
- 旧姓で仕事をしているが、社内システム上は新姓が表記されるため、社内手続きで同一人物と認識してもらえず、業務に支障があった。
- 申請により、旧姓を使うことができるが、旧姓を証明するために、申請時に戸籍抄本を取得しなくてはならず、費用と手間がかかる。
- 旧姓の教員免許を所持しているが、別の学校に異動する度に戸籍抄本の提出を求められるのが手間である。

II 過去に旧姓を使用していた者の状況

1 調査対象者

本節では、「過去に旧姓使用したが、現在は使用していない」者 896 人について、「過去に旧姓を使用していた者」として、実態把握を行った。

なお、この調査では、現在、旧姓を使用している者を 2,000 サンプル以上集めることを目的にスクリーニング調査を実施しており、調査対象者の選定に偏りがある点に留意が必要である。

年齢階級別にみると、30 代後半が 27.0%、40 代前半が 24.6% と、30 代後半～40 代前半が 5 割以上（51.6%）を占めている。

表 3.4 年齢階級

	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60-64 歳	総計
回答者数 (人)	3	88	183	242	220	143	10	6	1	896
割合 (%)	0.3	9.8	20.4	27.0	24.6	16.0	1.1	0.7	0.1	100.0

(備考) 1. 年齢は、調査時点の年齢であり、過去に旧姓を使用していた時期の年齢ではない。

2. 896 人のうち、男性は 0 人である。

雇用形態別にみると、「正社員・正職員」の全体に占める割合が 35.2%と、旧姓使用者の 69.1%に比べ 30 ポイント以上低い。一方、「パート・アルバイト」は 45.9%と、旧姓使用者（14.8%）の約 3 倍となっている。

表 3.5 雇用形態

	正社員・正職員	契約社員	(労働者派遣事業所の派遣社員)	パート・アルバイト	会社などの役員	自営業者(雇人あり)	自営業者(雇人なし)	家族従業者(自営業の手伝い)	その他	総計
回答者数 (人)	315	66	54	411	3	8	20	14	5	896
割合 (%)	35.2	7.4	6.0	45.9	0.3	0.9	2.2	1.6	0.6	100.0

(備考) 雇用形態は、調査時点のものであり、過去に旧姓を使用していた時期のものではない。

職種別にみると、旧姓使用者と比べて、「管理的な仕事」や「事務的な仕事」の割合が低く、「販売の仕事」や「サービスの仕事」の割合が高くなっている。

表 3.6 職種（正社員・正職員、契約社員、派遣社員、パート・アルバイトのみ）

	管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	生産工程の仕事	運搬・清掃・包装の仕事	その他	不明	総計
回答者数 (人)	16	213	317	112	141	31	15	0	1	846
割合 (%)	1.9	25.2	37.5	13.2	16.7	3.7	1.8	0.0	0.1	100.0

(備考) 1. 職種については、正社員・正職員、契約社員、派遣社員、パート・アルバイトの計 846 人が調査対象である。

2. 職種は、調査時点のものであり、過去に旧姓を使用していた時期のものではない。

2 過去に旧姓を使用していた時の意識

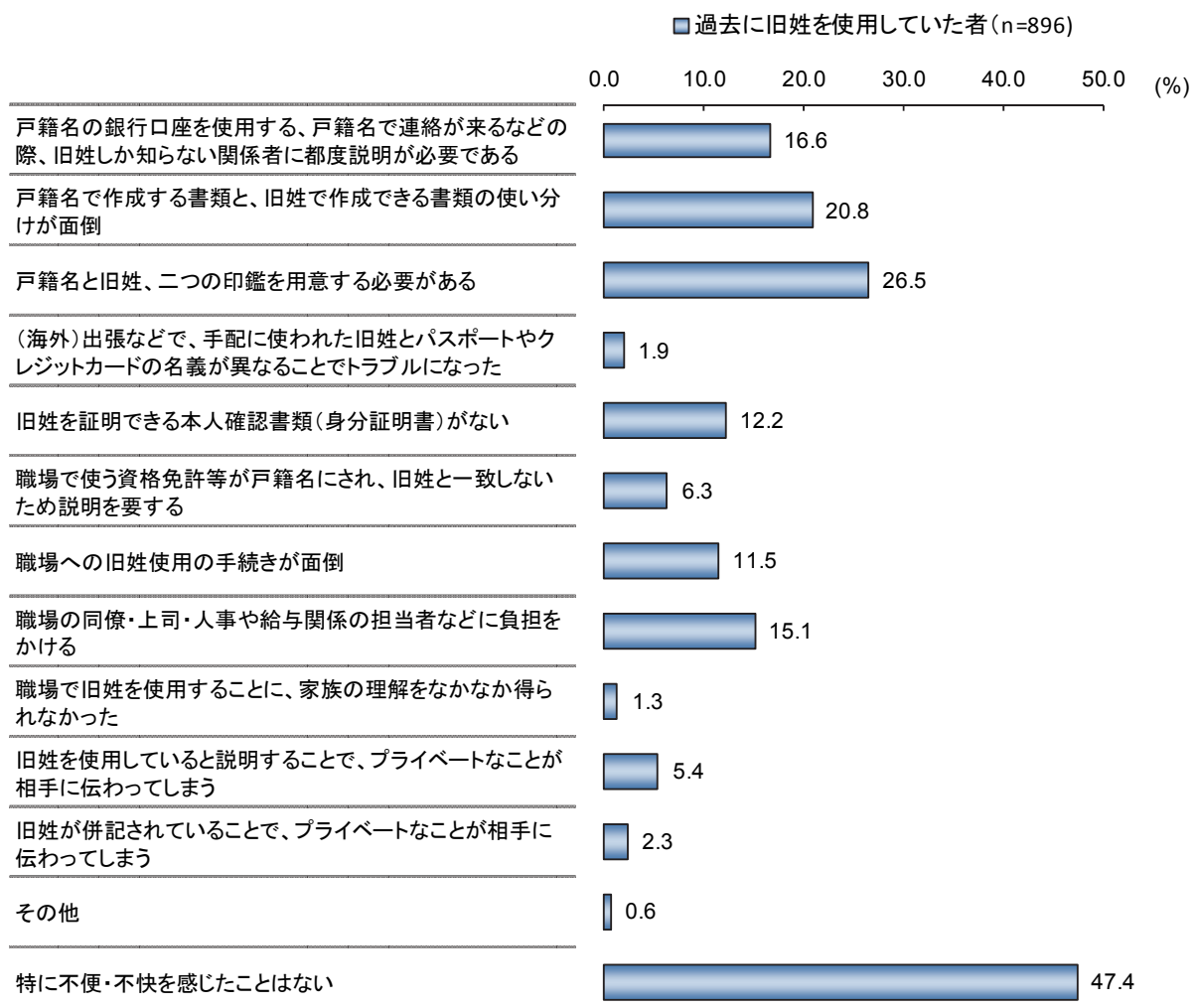
(1) 旧姓使用をしていた際に感じた不便・不快

過去に旧姓を使用していた者に、旧姓使用をしていた当時に感じた不便・不快を尋ねたところ、「特に不便・不快を感じたことはない」が47.4%となっている。

一方、不便・不快に感じた場面の具体例としては、旧姓使用者と同じく、「戸籍名と旧姓、2つの印鑑を用意する必要がある」(26.5%)、「戸籍名で作成する書類と、旧姓で作成できる書類の使い分けが面倒」(20.8%)、「戸籍名の銀行口座を使用する、戸籍名で連絡が来るなどの際、旧姓しか知らない関係者に都度説明が必要である」(16.6%)などの回答割合が高い

また、「その他」として、「職場で旧姓を使用することについて、上司や同僚の理解をなかなか得られなかった」などの意見があった。

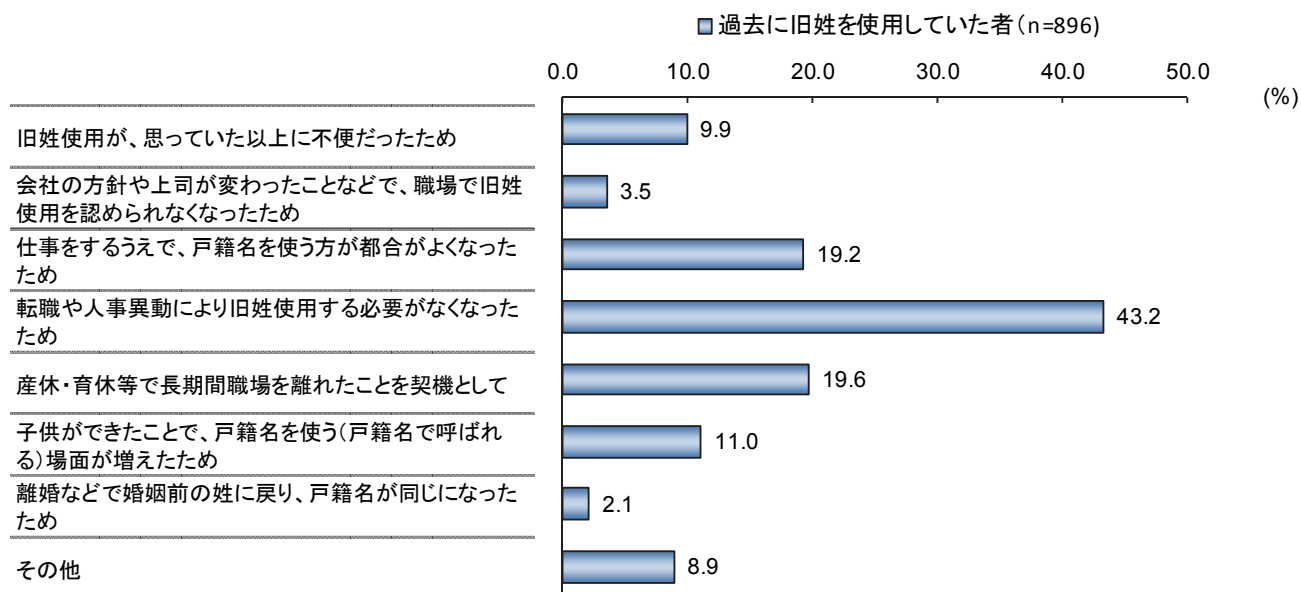
図3. 12 旧姓使用をしていた際に感じた不便・不快（複数回答）



(2) 旧姓使用をやめた理由・きっかけ

旧姓使用をやめた理由・きっかけとして最も高いのは、「転職や人事異動により旧姓使用する必要がなくなったため」(43.2%)であり、次いで「産休・育休等で長期間職場を離れたことを契機として」(19.6%)、「仕事をするうえで、戸籍名を使う方が都合がよくなったため」(19.2%)となっている。「その他」として、「給与振込等の労務管理上、戸籍名を使ってほしいと会社側から要望があった」、「年度が変わり、受け持つクラスが変わった」(教員、保育士)などの意見があった。

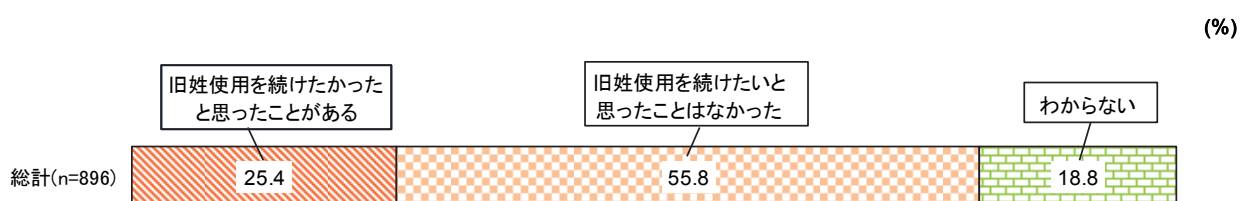
図3.13 旧姓使用をやめた理由・きっかけ（複数回答）



(3) 旧姓使用を続けたかったかどうか

過去に旧姓使用していた者について、「旧姓使用を続けたかったかどうか」を尋ねたところ、「旧姓使用を続けたいと思ったことはなかった」が55.8%、「旧姓使用を続けたかったと思ったことがある」が25.4%、「わからない」が18.8%となっている。

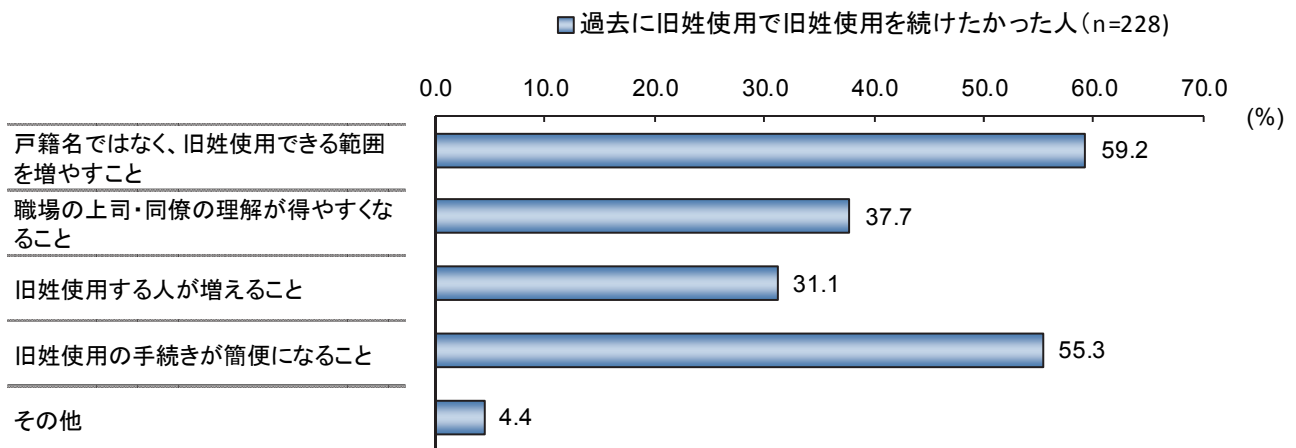
図3.14 旧姓使用を続けたかったかどうか



(4) 旧姓使用を継続する上で必要なこと

過去に旧姓を使用していた者のうち、前問で、「旧姓使用を続けたかった」と答えた者（n=228）について、「旧姓使用を続ける上でどのようなことが必要だと思うか」を尋ねたところ、「戸籍名ではなく、旧姓使用できる範囲を増やすこと」が59.2%、「旧姓使用の手続きが簡便になること」が55.3%と、職場での戸籍名・旧姓の使い分けや、手続きの煩雑さを軽減してほしいとの意見が多かった。

図3.15 旧姓使用を継続する上で必要なこと（複数回答）

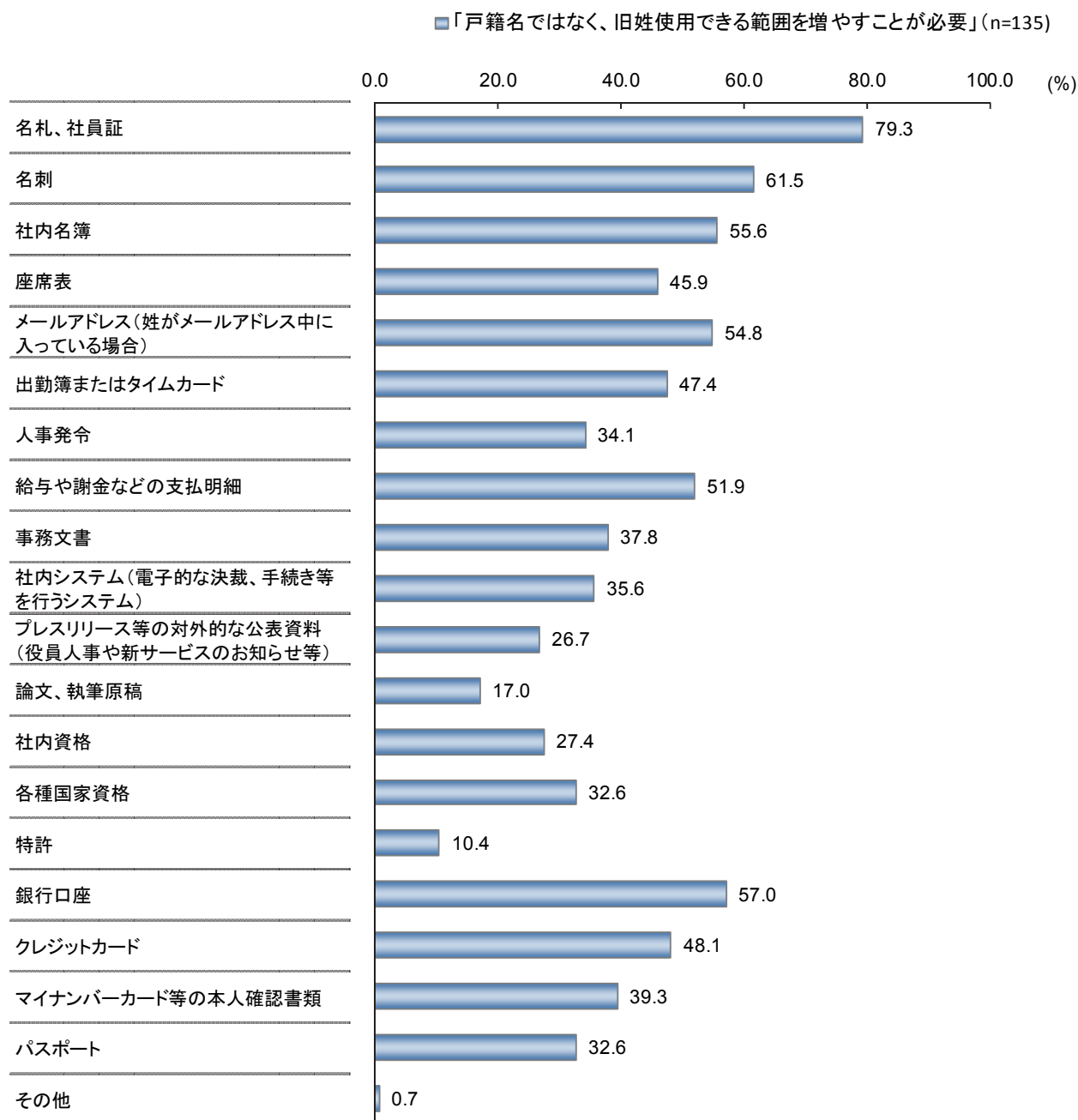


(5) 希望する旧姓使用の範囲

前問で「戸籍名ではなく、旧姓使用できる範囲を増やすこと」が必要と回答した者（n=135）が希望する旧姓使用の範囲を聞いたところ、高い順に、「名札・社員証」（79.3%）、「名刺」（61.5%）、「銀行口座」（57.0%）、「社内名簿」（55.6%）、「メールアドレス」（54.8%）となった。

一方、旧姓使用者の場合、「名札、社員証」、「名刺」、「社内名簿」、「メールアドレス」は、最も高い「名札、社員証」で81.5%、最も低い「メールアドレス」でも69.1%の者が旧姓を使用していると回答しており（7頁図3.1参照）、旧姓使用を認めていない職場の場合、まずはこうした項目について、旧姓使用を希望する者が旧姓を使用できる環境を整備することが望まれるものと考えられる。

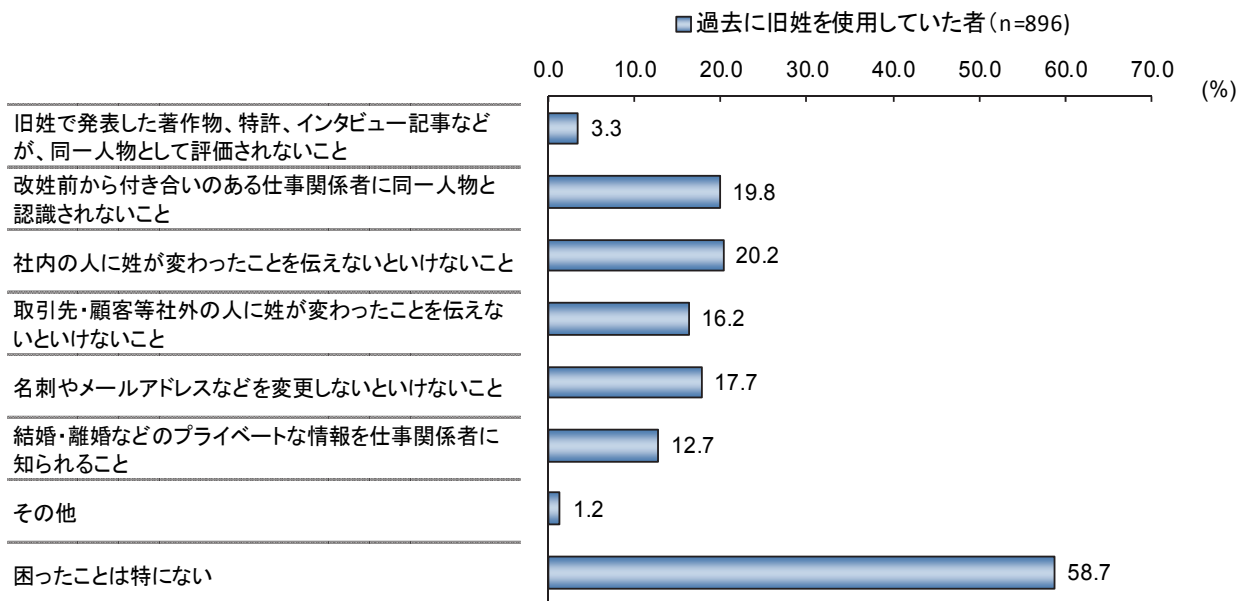
図3.16 希望する旧姓使用の範囲（複数回答）



(6) 旧姓使用をやめたことで困ったこと

過去に旧姓を使用していた者が、旧姓使用をやめたことで困ったことを尋ねたところ、「困ったことは特にない」が 58.7%となっている。一方、困ったこととして、「社内の人に姓が変わったことを伝えないといけないこと」(20.2%)、「改姓前から付き合いのある仕事関係者に同一人物と認識されないこと」(19.8%)を挙げた者がそれぞれ2割程度いた。

図3.17 旧姓使用をやめて困ったこと（複数回答）



Ⅲ 旧姓使用の経験がない者の状況

1 調査対象者

本節では、「(婚姻等で改姓したが)旧姓を使用したことはない」者 4,503 人について、「旧姓使用の経験がない者」として、実態把握を行った。

なお、この調査では、現在、旧姓を使用している者を 2,000 サンプル以上集めることを目的にスクリーニング調査を実施しており、調査対象者の選定に偏りがある点に留意が必要である。

年齢階級別にみると、40 代前半が 25.0%、40 代後半が 25.6%と、40 代が 5 割以上 (50.6%) を占めている。

表 3.7 年齢階級

	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60-64 歳	総計
回答者数 (人)	17	257	659	963	1,127	1,154	179	101	46	4,503
割合 (%)	0.4	5.7	14.6	21.4	25.0	25.6	4.0	2.2	1.0	100.0

(備考) 4,503 人のうち、3 人は男性だが、全体に占める割合がごくわずかであるため、実態把握に当たって、性別による区分は行わないこととした。

雇用形態別にみると、「正社員・正職員」が 31.5%、「パート・アルバイト」が 54.5%であり、旧姓使用者や過去に旧姓を使用していた者と比べて、「正社員・正職員」の割合が低く、「パート・アルバイト」の割合が高い。

表 3.8 雇用形態

	正社員・正職員	契約社員	(労働者派遣事業所の派遣社員)	パート・アルバイト	会社などの役員	自営業者(雇人あり)	自営業者(雇人なし)	家族従業者(自営業の手伝い)	その他	総計
回答者数 (人)	1,420	258	143	2,456	14	35	82	78	17	4,503
割合 (%)	31.5	5.7	3.2	54.5	0.3	0.8	1.8	1.7	0.4	100.0

職種別にみると、旧姓使用者や過去に旧姓を使用していた者と比べて、「事務的な仕事」の割合が低い。

表 3.9 職種 (正社員・正職員、契約社員、派遣社員、パート・アルバイトのみ)

	管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	生産工程の仕事	運搬・清掃・包装の仕事	その他	不明	総計
回答者数 (人)	68	1,079	1,339	519	749	326	188	8	1	4,277
割合 (%)	1.6	25.2	31.3	12.1	17.5	7.6	4.4	0.2	0.0	100.0

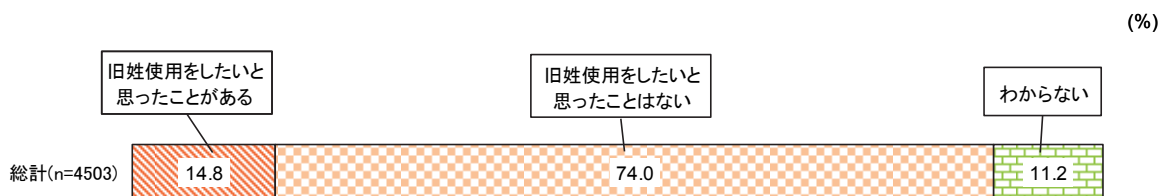
(備考) 職種については、正社員・正職員、契約社員、派遣社員、パート・アルバイトの計 4,277 人が調査対象である。

2 旧姓使用経験がない者の旧姓使用に関する意識

(1) 旧姓使用をしたいと思ったことがあるか否か

旧姓使用の経験がない者が、働くときに旧姓使用をしたいと思ったことがあるか否かについては、「旧姓使用をしたいと思ったことはない」が74.0%と、回答者の4分の3を占め、「旧姓使用をしたいと思ったことがある」と回答した者は、14.8%となっている。

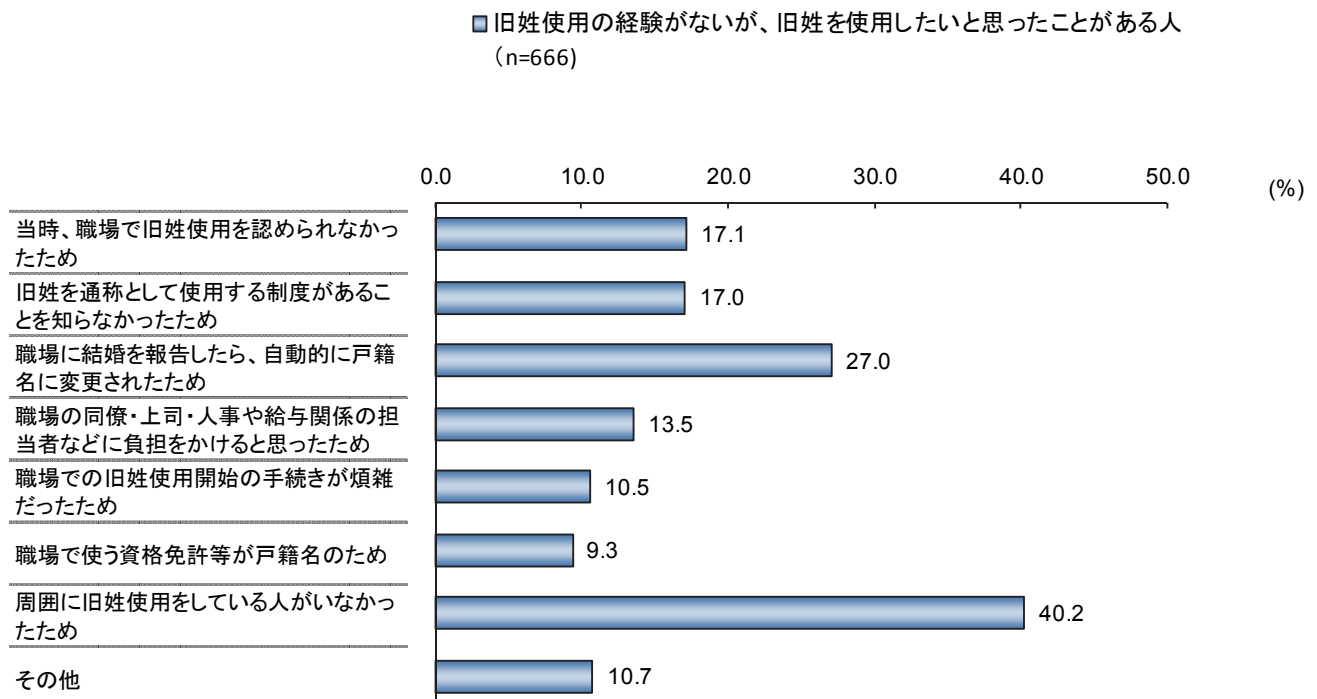
図3.18 旧姓使用をしたいと思ったことの有無



(2) 旧姓使用をしなかった理由

前問で、働くときに「旧姓使用をしたいと思ったことがある」と回答した者 (n=666) に旧姓使用をしなかった理由を尋ねたところ、「周囲に旧姓を使用している人がいなかったため」(40.2%)、「職場に結婚報告をしたら、自動的に戸籍名に変更されたため」(27.0%)、「当時、職場で旧姓使用を認められなかったため」(17.1%) など、職場環境や職場の方針を理由に挙げる者の割合が高い。

図3.19 旧姓使用をしなかった理由 (複数回答)



(3) 改姓したことで困ったこと

旧姓使用の経験がない者に、複数回答で、改姓して困ったことがあるかを尋ねたところ、「困ったことは特にない」が 75.3%となっている。一方、困ったこととして、「社内の人に姓が変わったことを伝えないといけないこと」(13.7%)、「名刺やメールアドレスを変更しないといけないこと」(10.7%)、「結婚・離婚などのプライベートな情報を仕事関係者に知られること」(8.9%) などの回答があったが、いずれも、過去に旧姓を使用していた者(24 頁図 3.1 7) と比べると低い。

図 3.2 0 改姓したことで、仕事の上で困ったこと (複数回答)

